大学生達による地域住民との協働の取組について

～住民の様々な意見を集約し、地域に愛される公園の基本設計・整備・維持管理を目指す～

東海大学海洋学部環境社会学科の学生有志でつくる地域活動グループ「SDEC」のメンバー12 名は、地元の三保半島折戸地区で計画されている清水港港湾緑地公園の整備にあたり、地元自治会等と協力し、住民の様々な意見を公園づくりに反映させ、実現に向けたワークショップの企画運営を行っています。

この公園整備に向けてのワークショップは平成２５年２月から 26 年６月までに８回を数え、学生、地元自治会、子ども会や PTA 等、地域の様々な団体や行政との協働による地域づくりの先進的取組として注目されています。

きっかけ

学生有志でつくる SDEC（Shizuoka Disaster Ecology、～静岡発の災害に強いエコ活動～）は、環境社会の実現を目指し地元と連携し様々な地域活動を行っているグループで、地域防災や水質環境問題等をテーマに活動をしています。

今回の活動のきっかけは、県清水港管理局が緑地公園の整備にあたり、地域住民の意見を反映させた公園にしたいと検討していました。

そこで、東恵子教授を通じ、SDEC メンバー12 名が、住民意見を計画づくりに反映させるワークショップの企画運営に名乗りを挙げました。

公園予定地にて学生や住民が意見交換

第２回ワークショップに参加した皆さん

目標

学生の主体的なワークショップの企画運営により、学生の視点を活かし、幅広い世代の人達が参加し、知恵を出し合いながら、「皆に永く愛される公園」を創ることを目指しています。

そして、計画づくりのプロセスを多くの方が共有することで、公園に対する愛着が生まれ、完成後も活発に活用され、地域の皆による維持管理を目指す施設にしたいと考えました。

取組・成果

８回のワークショップでは、東海大学の学生、関係者へのアンケート調査の集計・分析、周辺の公園の利用状況や他地域の公園の整備事例などの調査を行い、よりよい公園づくりのための参考として資料提供を行っています。

また、ワークショップでは、意見を集約するファシリテーターを務め、情報の共有、合意形成を目的とした模型や CG シミュレーションを作成し、より具体的な意見交換を進めてきました。ワークショップの進捗状況をまとめたニュースレター作成等、周辺の住民の方々への理解を深めてもらう情報発信を行っています。

上：住民に会議内容を周知するニュースレター
下：緑地公園を視覚化するジオラマ　共に学生が作成

ワークショップの様子

これまでの白熱した議論により、公園整備計画は、子供から大人まで広く多目的に利用できる全面芝生とし、築山や東屋を設置するなど多様な住民の意見を反映することができました。

メンバーからは、「異なる意見をまとめ結果を出すことは大変だが、回を重ねるごとに住民の方々と一体となり喜んでもらえ本当に良かった。」、「自分達が中心となって活動できたことに達成感を感じています。」と感想がありました。

また、住民からも「学生が調査した資料が分かりやすく、自治会ではできないものです。学生達には感謝しています。」と高い評価をいただきました。

折戸緑地公園の整備計画の話し合いも最終段階を迎え、今年度中には皆の想いが詰まった公園が実現する予定です。

取材を終えて

地域に愛される緑地公園を地元に作ることを目指して、学生達が、自治会、子ども会、PTA など地域の様々な団体と連携・協力した主体的な取組は、他の地域づくり活動の参考となる事例です。

また、学生自身にとっても地域に飛び込み、街の将来を考えながら公園づくりに携わることは貴重な学びの場となり、協働の取組に手応えを感じた様子でした。

東海大学生は地域住民の重要な一員として、ますます頼りにされると思います。

今回の貴重な成果を活かし、今後の地域活動の展開を期待します。